キャラクター名
都 仁夏(みやこ に な)

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ バロール	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル	ブラム＝ストーカー	年齢	17	性別	女
覚醒	素体	衝動	吸血	初期侵食率	38 %
出自	天涯孤独	経験	実験体	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	4	0	0		4	8
精神	3	0	1			4
社会	1	0	0			1

HP	26
行動値	20
(非装備時)	20
戦闘移動	25
全力移動	50

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	8r+3				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

コネ:UGN幹部	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
実験体	P	N		
研究員	P 執着	N 恐怖		
コードウェル博士	P 傾倒	N 不快感		
都 秋	P 幸福感	N 困惑		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:エンジェルハィロゥ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV(下限値7)							
光の舞踏	1	2	メ/リ	武器	-	-	-	
効果：	【感覚】で判定を行える							
渇きの主	4	4	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果：	装甲無視/命中時HP[LV×4]点回復							
朱色の大斧	5	4+1	メジャー	武器	単体	対決	リミット	
効果：	与ダメ時シーン間攻撃力+[LV×4]							
時間凍結	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	メインプロセスを行える/HP20点消費/行動済ならない							
ハイブリーディング	1	6	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果：	EF1つの使用回数回復/侵蝕値と等しいHP失う							
シャイニングアーム	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	素手変更/命中0/攻撃力+【感覚】/ガード値0							
ブラッドリーディング	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：	血や体液からその主の情報を読み取る							
ウサギの耳	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	聴覚の指向性を高める							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

〇過去
十数年前、身寄りのない子供や捨て子を引き取って実験体にしてオーヴァードに覚醒させ、一流の兵器として育てあげるという計画がFH内で秘密裏に行われていた時期があり、その実験体の一人として育てられていた。被験体No.27。それが彼女に与えられた名前だ。物心ついた時には本当の両親もわからず、周りの孤児たちとともに訓練に励んでいたが、武器を扱う才能が無いことや素手の攻撃もそこまで強くないことから「役立たず」の烙印を押されてしまい、不要だと判断されて捨てられてしまう。露頭に迷った幼い彼女に手を差し伸べてくれたのがUGNであり、都 秋だった。
秋は要らないと言われて捨てられた彼女のことを家族のようにとても大切に育ててくれたし優しく接してくれたしいっぱい甘えるのを許してくれた。――そんなこんなで元気なメンヘラ女が爆誕してしまったのである。

〇現在
明るく元気なボクっ娘。しかし秋のことが絡むと時々情緒不安定になりメンヘラ気味になる。構ってくれない時は気を引こうと悪いことをしようとしたりする。
秋のことが大好きで、「シュウ兄」と呼んで慕っている。
FHにいたのは幼い頃だったので自らが元々FHの実験体だったという自覚はない。が、「お前は要らない」と言われて捨てられた事実だけ鮮明に焼き付いており、自分は要らない子なのだから役に立つ存在にならなきゃいけない、という潜在意識がある。
戦闘では武器もろくに扱えない「役立たず」だし頭もあまりよくない。何か役に立ちたくて秋に料理を教えてもらったりしているが、武器と同様道具を扱うのが壊滅的に下手くそなためうまくいった試しがない。それでも秋はいつも笑って許してくれたから、役に立たない自分でもそばにいていいんだ、と、そう思えた。
そう、思っていたのに。
秋は、自分を置いてUGNを去ってしまった。
仁夏は思った。どうして、どうしてボクを置いて行ったの。やっぱり、役に立たないから？『要らない子』だったから？
いやだ。置いて行かないで。ボク、ちゃんと役に立つから。どうやったらシュウ兄の役に立てるの。――シュウ兄と同じFHに入ったら、ボクもシュウ兄の役に立てるかな。
そんなことを考えながら、毎日毎日秋のことを探している。